八戸市地域おこし協力隊活動状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名　　大久保　加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：２０２４年６月分】

１．実施した活動の概要・状況

ECサイト(ローカルマーケットオンラインショップ)運営・改修作業、農園マルシェ営業補助、クリッピング作業、秋保エリア視察、メディアリレーション・SNSによる広報活動を行った。

（主な活動）

【秋保エリア視察】高齢化で町の賑わいをなくしていたが、今や「まちづくりの成功事例」と言われている人口約3800人の秋保エリアでの視察を6月21日に行った。今回は、秋保エリアで眠っていた古民家を再生するプロジェクトとして、ヒト・モノ・コトを結ぶ拠点となる飲食施設「アキウ舎」を起点とした㈱アキウツーリズムファクトリーの取組みや、地域おこし協力隊の地域活性化事例について話を伺った。

秋保エリアでは、地域の事業者たちが「1社では難しくても、みんなで協力すればできる」ことを実感し、一致団結できた成功例が多くある。それは協力隊活動も同様であり、『AKIU VALLEY協議会』の事業者をはじめとしたメンバーが、ソトから来た人でも地域に溶け込めるよう人と人をつなぎ、関係構築を築いていくための土壌を耕していることも大きな下地となっている。

取組みの中で印象的だったのは、地域おこし協力隊が中心となり作成した秋保エリアのカフェマップの話である。2019年後半コロナウィルスの感染拡大以降、秋保エリアでの宿泊客数が落ち込んだ中でも、アキウ舎の来客数は大きくは変わらなかった。それは旅館利用の客層と年代が異なり、アキウ舎を訪れる客層は比較的若い層であったことによる。そこで2021年にさらなる若年層をターゲットに地域おこし協力隊が中心となり、秋保エリアのカフェマップの作成を手掛けた。協力隊が各オーナーへ取材を行い、秋保への出店を決めたきっかけや地域への想い、メニューへのこだわりなどを盛り込んだ内容となっている。若者目線のカフェマップの作成により、秋保エリアでカフェ巡りをする若年者層が増加傾向にあり、約５年間で飲食やクラフトの店舗が13店舗から約３倍の39店舗に増加したという。オーナーは移住者が多く、秋保エリアのポテンシャルに魅了されて定住につながっている。特に若い層の移住者が増えており、まちおこしの先進地として新しいことに挑戦したい人たちが続々と集まるような相乗効果が創り出されている印象だった。秋保エリアの活性化は民間が主導となり取り組んで成功した事例であり、大変学びがある視察とな

った。

古民家を再生した飲食施設『アキウ舎』

地域活性化事例の視察の様子

２．翌月の活動予定

EC サイト運営・改修作業、プロカメラマンの撮影同行、農園マルシェ営業補助、SNS 発信など